

## 地球規模課題学位プログラム

Bachelor's Program in Global Issues

- 学士（学術）
- Bachelor of Arts and Science

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

本学位プログラムは、地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、人間と環境に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢を持ち、多くの選択肢の中から最適な解決を意思決定できる人材を養成します。

<p><b>養成する人材像</b></p>	<p>国際機関や研究機関、あるいは世界展開している企業など、地球規模の課題を解決するあらゆる場で、柔軟で論理的な思考力と、興味に応じた高度な専門知識を武器に活躍できる人材を養成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 文理融合の立場から、地球規模課題を俯瞰できる幅広い基礎知識と体系的な専門知識を備えている人材</li> <li>- 地球規模課題に関して、多角的な視点から総合的に分析し、創意工夫によって課題解決に取り組む能力を備えている人材</li> <li>- グローバル社会において自分自身の見解を論理的かつ説得的に主張しつつ、他者の意見にも十分耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力を有し、異分野・異文化の環境において積極的にリーダーシップを発揮し、社会に貢献できる能力を備えている人材</li> <li>- グローバル社会における多様な価値観を尊重しつつ、公正で持続可能な社会の形成に資する高い倫理観を備えている人材</li> </ul>
<p><b>卒業後の進路</b></p>	<p>国際機関や研究機関、あるいは世界展開している企業など、地球規模の課題を解決目指す組織。具体的には、グローバル企業（製造業、コンサルティング、教育等）、総合商社（環境ビジネス、医療・健康機器・食品業界、海外リスク管理企業等）、国際機関（UN、WHO、UNESCO等）、大学院進学を想定しています。卒業生の約3割は筑波大学を含む国内外の大学院に進学しています。</p>

## 学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、地球規模課題学位プログラムの人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（学術）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 基礎的知識	理学、人文学、社会学、情報学等の分野における、基礎・専門基礎科目レベルの、分野横断的に地球規模課題に取り組むために必要な基盤となる知識
	2. 情報解析力	地球規模課題の解決に向けて収集した情報を分析・解析し、的確な解釈と理解を行う能力
	3. 対話的コミュニケーション能力	異なる文化的背景や専門をもつ人々に対しても論理的に説明し、共感を伴って討論を行うことのできるコミュニケーション能力
	4. 専門的知識	地球環境、リスクと安全、健幸問題、共生社会、持続可能性といった、地球規模課題の分野横断的課題を解決するのに必要な、関連分野の専門科目のレベルの知識
	5. 問題発見・解決能力	自然環境や人間社会の中から地球規模課題の問題を抽出し、それに対して解決策を見出せる能力。
	6. 提言力	地球規模課題に関し、基礎・専門的知識、精緻な情報分析に基づき、課題解決に向け具体的な方策を提案できる能力
学修成果の評価に関する方針	カリキュラムに沿った科目の単位を取得し、汎用コンピテンス並びに専門コンピテンスが身に付き、地球規模課題に取り組む学士（学術）にふさわしい見識、俯瞰的に把握する能力、課題を解決に導く能力を有しているかを評価します。卒業研究または長期実習では、課題の発見力、課題解決能力、研究または実務実施能力などを評価し、卒業研究発表会においてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、質問に対応する能力などを確認し、汎用・専門コンピテンスが養われているか学位授与の方針に記載した能力を総合的に評価します。	

## 教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士 (学術) の学位を授与するために、本学位プログラムが定めるコンピテンス (汎用コンピテンスおよび専門コンピテンス) が涵養されるよう、人材養成目的に基づき、以下の方針で教育課程を編成・実施します。授業は英語による少人数教育で行い、課題解決型学習 (Problem Based Learning) を主体とした授業を多く取り入れています。また、国際基督教大学との連携により、同大学で英語による基礎科目 (教養教育科目) を履修します。なお、学生が科目を履修するにあたっては、事前に履修モデルを提示するとともに、学生個々にきめ細かい履修指導を行います。

教育課程の  
編成方針

## &lt;全体的な方針&gt;

本プログラムは、地球規模課題を多角的に俯瞰し、文理融合の視点から課題解決に貢献できる人材を養成するため、体系的かつ実践的な教育課程を編成します。授業はすべて英語による少人数教育で行い、課題解決型学習 (Problem Based Learning: PBL) を軸に据えることで、学生の主体的な学びを促進し、コンピテンスを総合的に育成します。

授業科目は、大学での学修の基礎を築き、幅広い教養を身につける「基礎科目」、地球規模課題の全体像と基本的な分析手法を学び、コンピテンスの土台を築く「専門基礎科目」、そして専門性を段階的に深め応用力を養う「専門科目」に区分して配置します。専門科目は、大きく「環境」と「人間」の2つの専門領域から構成され、それぞれが更に「地球環境」「リスク・安全」、「社会共生」「人の健幸」という2つの視点に細分化されています。

学修の集大成として、4年次には卒業研究または長期インターンシップを課し、4年間で培った知識、技術、倫理観を統合し、現実社会の課題解決に応用する能力 (特に専門コンピテンス) が目標水準に到達したことを確認します。

## &lt;各学年 (セメスター) の学習目標と涵養されるコンピテンス&gt;

4年間の学修を段階的に進め、効果的に能力を育成するために、各学年において以下の学習目標を設定し、関連するコンピテンスを重点的に涵養します。

## 1年次:【Foundations - 基礎形成期】

学習目標: 1年次前半 (10月~3月) は筑波大学で専門分野への導入教育を受け、後半 (4月~9月) は国際基督教大学 (ICU) に滞在し、集中的なりベラルアーツ教育を受けます。これにより、大学での学びに必要なアカデミックスキルを習得し、幅広い教養と学問的視野を広げます。地球規模課題の全体像を概観し、環境と人間の両側面から課題を捉えるための基本的な知識とリテラシーを、両大学の特色を生かした環境で身につけます。

涵養される主なコンピテンス:

専門コンピテンス: 基礎的知識

汎用コンピテンス: コミュニケーション能力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性

## 2年次:【Exploration - 専門探求期】

学習目標: PBL形式の演習・実習を通じて、4つの専門領域の基礎知識と応用スキルを学び始めます。グループワークやフィールドワークを通じて、現実の地域社会が抱える課題を分析し、自らの関心領域を探求します。

涵養される主なコンピテンス:

専門コンピテンス: 専門的知識 (基礎)、情報解析力、問題発見・解決能力 (基礎)

汎用コンピテンス: 批判的・創造的思考力、協働性・主体性・自律性

教育課程の 編成方針	<p>3年次：【Specialization - 専門深化期】</p> <p>学習目標：各専門領域に関するより高度な専門知識と応用スキルを深めます。PBLを通じて、複雑な地球規模の課題を多角的に分析し、論理的根拠に基づいた解決策を構想・提案する能力を高めます。卒業研究に向けた研究計画を策定します。</p> <p>涵養される主なコンピテンス：      専門コンピテンス：専門的知識（応用）、対話的コミュニケーション能力、問題発見・解決能力（応用）      汎用コンピテンス：批判的・創造的思考力</p> <p>4年次：【Integration &amp; Application - 統合・実践期】</p> <p>学習目標：卒業研究または長期インターンシップを通じて、特定の課題に対する専門性を確立します。4年間の学びで得た知識とスキルを総動員し、プロジェクトを主体的に計画・実行し、その成果を論理的かつ説得的に発信します。</p> <p>涵養される主なコンピテンス：      専門コンピテンス：提言力、および全ての専門コンピテンスの統合      汎用コンピテンス：全ての汎用コンピテンスの統合と実践</p> <p>&lt;授業科目の配置の方針&gt;</p> <p>上記の学習目標を達成し、各コンピテンスを効果的に育成するため、授業科目を以下の方針に基づいて配置します。</p> <p>【基礎科目】</p> <p>大学教育への円滑な移行と、「コミュニケーション能力」や「広い視野と国際性」の基礎を築くため、1年次前半に「ファーストイヤーセミナー」等を配置します。加えて、幅広い教養を養うため、1年次後半（4月～9月）は国際基督教大学（ICU）に滞在し、同大学の質の高いリベラルアーツ教育（基礎科目）を集中的に履修します。</p> <p>【専門基礎科目】</p> <p>地球規模課題に関する共通の基盤と「基礎的知識」を形成するため、1年次前半に筑波大学にて配置します。「地球規模課題総論」では、多様な課題を俯瞰し、のちの専門的な学びへの動機付けを行います。「地球規模課題方法論」では、PBLや卒業研究に不可欠な「データ・情報リテラシー」や「対話的コミュニケーション能力」の基礎を重点的に育成します。「地球規模課題基礎論（環境）・（人間）」では、文理両側面からの「基礎的知識」を体系的に習得します。</p> <p>【専門科目】</p> <p>「専門的知識」「情報解析力」「問題発見・解決能力」を段階的に涵養するため、2年次から4年次にかけてPBL形式の演習・実習科目を系統的に配置します。これらの科目では、「協働性・主体性」も同時に育成します。2年次の「地球規模課題基礎演習・実習 A-I / B-I」では、専門分野への導入として、基本的な問題分析と解決策の探求を実践します。3年次の「基礎演習・実習 A-II / B-II」では、より高度な分析手法を学び、学生個々の研究テーマの深化を促すことで、「批判的・創造的思考力」を刺激します。4年次の「総合演習・実習 III」および「卒業研究 I・II」（または長期インターンシップ）をキャップストーン科目として配置します。ここでは、これまでの学びで得た全てのコンピテンスを統合し、課題解決に向けた具体的な「提言力」を養い、その達成度を最終的に評価します。</p>
---------------	---

<b>学修の方法 特色的な教育</b>	本プログラムは、すべて英語で課題解決型学習（Problem Based Learning）を実施します。専門科目は全学群から幅広く履修ができます。また、国際基督教大学との連携により、同大学において英語による基礎科目（教養科目）を履修します。
-------------------------	--

地球規模課題学位プログラム（学士）の専門分野		
領域	柱となる視点	専門分野
環境	地球環境	環境学、地球科学、地理学、社会科学
	リスク・安全	社会工学、安全システム科学、総合工学
人間	社会共生	人文学、社会科学、哲学、言語学、政治学
	人の健幸	スポーツ科学、衛生学、社会医学

カリキュラムの構成					
4年	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">専門科目（演習・実習） 12単位</td> <td style="text-align: center;">卒業研究またはインターンシップ 6単位</td> </tr> </table>	専門科目（演習・実習） 12単位	卒業研究またはインターンシップ 6単位		
専門科目（演習・実習） 12単位	卒業研究またはインターンシップ 6単位				
3年	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">専門科目（演習・実習） 18単位</td> <td style="text-align: center;">専門科目（講義） 15単位</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基礎科目 1.5単位</td> <td></td> </tr> </table>	専門科目（演習・実習） 18単位	専門科目（講義） 15単位	基礎科目 1.5単位	
専門科目（演習・実習） 18単位	専門科目（講義） 15単位				
基礎科目 1.5単位					
2年	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">専門科目（演習・実習） 18単位</td> <td style="text-align: center;">専門科目（講義） 15単位</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基礎科目 5.5単位</td> <td></td> </tr> </table>	専門科目（演習・実習） 18単位	専門科目（講義） 15単位	基礎科目 5.5単位	
専門科目（演習・実習） 18単位	専門科目（講義） 15単位				
基礎科目 5.5単位					
1年	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">基礎科目 21単位</td> <td style="text-align: center;">専門基礎科目 12単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">専門科目（講義） 3単位</td> </tr> </table>	基礎科目 21単位	専門基礎科目 12単位		専門科目（講義） 3単位
基礎科目 21単位	専門基礎科目 12単位				
	専門科目（講義） 3単位				

### 入学者受入れの方針 / Admission Policy

<b>求める人材</b>	地球環境、リスク・安全、社会共生、人々の健幸といった課題に関心を持ち、文系・理系の双方の幅広い素養を備えた人材を求めます。学問領域の垣根を越えて主体的に学び、習得した知識・技術・方法を活用しながら、将来は国内外のグローバル企業や国際機関等において、社会的課題の解決や新たなイノベーションの創出に貢献する意欲を持つ方を歓迎します。
<b>入学者選抜方針</b>	書類審査およびオンライン口述試験により、英語力を含む学業基礎能力、地球規模課題に対する関心と理解、学際的な学修意欲、論理的・批判的な思考力や表現力、柔軟な応答力、国際的視野を評価します。

### 学修支援体制 / Learning Support Framework

<b>学修支援</b>	学生委員会の教員にコアタイムが設けられ、必要に応じて学生の学修相談をうけられる仕組みとなっています。
<b>学生同士の交流機会</b>	日常の授業科目における、グループワークやフィールド実習を通して、学生同士の交流を図っています。外国籍の学生には、入学直後から各学生に本学位プログラムの先輩学生を学生チューターとして配置しています。

教員との交流機会	卒業研究活動に関して、主となる指導教員とともにメンター教員を配置し、異なる視点からの指導による研究の質の向上および学生と教員のコミュニケーションの円滑さの向上に取り組んでいます。
----------	---

## 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

### 運営体制

プログラム全体の活動を統括する教育会議の下に運営委員会を置き、さらに下部組織として入試委員会、カリキュラム委員会、広報・国際連携委員会、学生委員会、Faculty Development 委員会を置き、各種の課題に対応します。

### 教育の自己点検体制

学位プログラムの人材養成目的、3つのポリシー、教育指導法、学生の学修成果、成績評価の自己点検は、運営委員会にて実施します。

### 教育指導体制

学位プログラムに参画する教員は、Faculty Development (FD)・StaffDevelopment (SD) 研修会において、学位プログラムの人材養成目的、3つのポリシー、教育指導法、学生の学修成果、成績評価等について意見交換・討論を行い、共通認識を持って教育に当たります。また学位プログラムに関係する教職員の協力関係の構築及び学生指導活動の一層の充実を図ります。

### 学生の意見反映

学生委員がコアタイムを通じて日々学生と接しており、各学生の意見を頻繁に聴取する機会があります。加えて、アカデミックな内容については、メンター教員と研究指導教員が配置され学生とのコミュニケーションを図っています。課題については各種委員会等で検討のうえ、改善を図ります。